

# 新たな家畜改良増殖目標(第12次) の検討状況について

---

令和6年11月  
畜産局畜産振興課

# 畜種別研究会の開催状況と今後のスケジュール(案)

令和6年9月以降 畜種別に研究会にて議論（年度内に全1～2回開催予定）

（研究会に先立ち、委員へ現状の説明及び改良増殖に関する意見を聴取したところ）

- |            |   |
|------------|---|
| 令和6年10～11月 | ☆第1回畜種別研究会<br>【主要論点】家畜改良増殖目標（骨子案）<br>【畜種】 乳用牛、肉用牛、豚、鶏 |
| 令和6年11～12月 | ☆第1回畜種別研究会<br>【主要論点】家畜改良増殖目標（案）<br>【畜種】 馬、めん山羊        |
| 令和7年1月     | ☆第2回畜種別研究会<br>【主要論点】家畜改良増殖目標（案）<br>【畜種】 乳用牛、肉用牛、豚、鶏   |

令和7年1月 食料・農業・農村政策審議会畜産部会への構成案の説明

2月 // 骨子案の説明

3月中旬頃 // 本文案の説明

3月下旬頃 新たな家畜及び鶏の家畜改良増殖目標の公表

## ■ 乳用牛

### 現状と課題

- 新型コロナウイルスの感染拡大以降、**特に脱脂粉乳需要の減少**から生乳需給は緩和。
- 乳用牛1頭当たりの乳量は年々増加しているが、**供用期間の短縮や受胎率の低下**がみられる。
- **酪農の労働時間は長く**、高齢化の進展等により**担い手不足**が顕在化。
- **温暖化等の環境の変化への適応**や、**アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理**などの対応が必要。

### 【能力に関する目標】

- 乳量 生涯生産性を高めるため、繁殖性の向上等を行いつつ、乳量も**バランスよく改良**。
- 乳成分 需要等に応じた**乳成分率の表型値目標の在り方や総合指数（NTP※）の割合について更に検討が必要**。（※）産乳・耐久性・疾病・繁殖などの要素を加味した、種雄牛を選抜するための総合指数。
- 長命連産性 **繁殖性・耐久性**に重点をおいた改良を推進するため、疾病抵抗性の評価を開始。
- その他の形質 **暑熱耐性**などの改良の推進、**飼料利用性**等の新たな形質の導入などにより、日本の飼養環境に適した改良を推進。
- 体型 極端な**大型化の抑制**、**搾乳ロボットへの適合性**が高い牛へ改良。

### 主な方向性（案）

### 【能力向上に資する取組】

- 牛群検定 牛群検定への参加を促進するため、牛群検定の成績から得られる情報について、生産者等が活用しやすいように**情報提供の方法等を工夫**。
- 改良手法 **ゲノミック評価の信頼度向上とヤングサイア※の利用促進**により改良速度を加速化。
- 飼養管理 **AW指針に配慮した飼養管理**や、**ICT技術等を活用した飼養管理**の実施。自らの経営を踏まえた最適な飼養管理方法により能力を発揮させることを促進。

（※）ヤングサイア・・・ゲノミック評価により選抜された候補種雄牛



## ■肉用牛

### 現状と課題

- 生産現場の多くでは、**脂肪交雑を重視した和牛生産**となっている中で、
  - ① **消費者ニーズは多様化。**
  - ② 和牛全体での**近交係数が上昇し、遺伝的多様性の喪失が懸念。**
- 飼料価格の高止まり等により**生産コストが増加**する一方、牛肉需要の減退により**枝肉価格は低迷**しており、**より効率的な肉用牛生産が必要。**

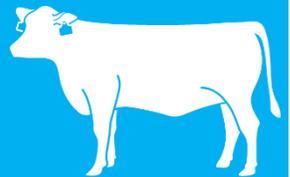
### 【能力に関する目標】

- 産肉能力 脂肪の質など、**食味の向上に重点を置いた種畜の選抜・利用**の推進。
- 繁殖性 **分娩間隔の短縮**や**性成熟を踏まえた初産月齢の適正化**等を推進。
- 飼料利用性 生産コスト低減の観点から飼料利用性に関する**指標化・実用化に向けた検討**を推進。

### 【能力向上に資する取組】

- 改良手法
  - 食味、繁殖性、飼料利用性、生時体重や日齢枝肉重量といった発育に関する形質など**新たな改良形質に着目したゲノミック評価や種雄牛造成**などを推進。
  - **広域流通される種雄牛**は、希少系統の繁殖雌牛群から希少系統種雄牛を造成するなど、**遺伝的多様性に配慮。**
- 飼養管理
  - **ICTやスマート機器の活用**等により、確実な発情発見、授精適期の把握、分娩事故や子牛の事故の防止等を徹底し、**1年1産**に近づける。
  - 多様な肥育形態の1つとして、**短期肥育・早期出荷の普及に向けた実証**に取り組み、**生産現場への定着**を推進

### 主な方向性 (案)



## ■ 豚

### 現状と課題

- 家畜伝染性疾病による遺伝資源喪失リスクが高まっており、食料の安全保障の観点からも **国内で遺伝資源を確保し、純粋種豚の改良体制を維持**していくことが重要。
- **産肉能力**については、我が国で求められているニーズに対応しつつ食味も含めた **肉質の更なる改良**が必要。
- **コスト削減に資する改良や衛生管理の取組**を推進する必要。

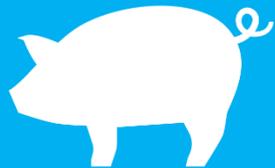
### 【能力に関する目標】

- 繁殖能力 **1腹当たり育成頭数の向上**に着目した改良を進める。
- 産肉能力 **肢蹄の強健性**や他の産肉形質への影響を考慮しつつ**増体性に着目した改良**を進めるとともに、**デュロック種においては、ロース芯への脂肪交雑の高い集団の作出・利用**を推進。
- 体型 **肢蹄に関する評価指標**については、普及に向けた**データの収集・分析**や**改良現場での活用**を推進。

### 【能力向上に資する取組】

- 改良手法 改良体制の強化を通じて、**純粋種豚の多様性を維持**しつつ、**能力向上と優良な育種素材の活用**を推進。
- 飼養管理 **AW指針に配慮した飼養管理**や、**ICT技術等を活用した飼養管理**の実施。
- 衛生管理 **グループ生産システム等**を活用した**オールイン・オールアウトの導入等**の推進。

### 主な方向性 (案)



## ■ 鶏

### 現状と課題

- 多様な消費者ニーズに対応した鶏卵・鶏肉の安定供給と生産コストの低減等に資するため、国産鶏種の改良・増殖等に引き続き取り組むことが必要。
- 輸入規制等のリスクに備え、国内育種資源の多様性及び選択肢の確保並びに外国種鶏の国内における安定供給が重要。

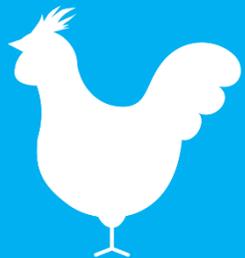
### 【能力に関する目標】

- 卵用鶏 長い期間、高い産卵性を維持する改良を推進するとともに、地域の消費者ニーズ等を踏まえ卵重量等の目標で幅を持たせる。
- 肉用鶏（ブロイラー） 生産コストを低減するため、飼料要求率と育成率の改良を推進。
- 国産鶏（地鶏等） 特色ある品質を保持しつつ、合理的な価格水準での供給が図られるよう生産コストの低減を推進。

### 【能力向上に資する取組】

- 改良手法等 ➤ （独）家畜改良センターや都道府県が所有する原種鶏を活用して、増体性や産卵性が高い種鶏を造成し、安定的な雛の生産と供給を推進。
  - 遺伝資源の保存や改良増殖に資する始原生殖細胞(PGCs)の保存等技術の習得及び普及体制について、関係者間で相互に補完できるよう体制の構築を図る。
  - 国産鶏の独自性に配慮し、生産性の向上を図るため、攻撃性等を低減させる改良手法を探索。

### 主な方向性 (案)



# (参考)家畜及び鶏の改良増殖目標畜種別研究会委員一覧

## ■乳用牛

<u>石田 陽一</u>	(株) 石田牧場 代表取締役
<u>泉 由紀子</u>	(株) 泉屋東京店 代表取締役社長
<u>磯貝 保</u>	(一社) 家畜改良事業団 理事
<u>内田 好祐</u>	宮崎県経済農業協同組合連合会 課長補佐
<u>大井 真紀子</u>	(独) 家畜改良センター岩手牧場 業務課長
<u>菊池 淳志</u>	(一社) 中央酪農会議 専務理事
<u>國行 将敏</u>	(一社) 日本ホルスタイン登録協会 事業部長
<u>佐々木 秀弥</u>	北海道農政部生産振興局畜産振興課 課長
<u>谷山 和雄</u>	栃木県農政部畜産振興課 課長
<u>土門 幸男</u>	(一社) ジェネティクス北海道 常務理事
<u>萩谷 功一</u>	帯広畜産大学生命・食料科学研究部門 准教授
<u>森田 満樹</u>	(一社) Food Communication Compass 代表
<u>吉川 広行</u>	(株) 十勝家畜人工授精所 代表取締役
<u>吉本 幸博</u>	(一社) 日本乳業協会企画・広報部 部長

## ■肉用牛

<u>穴田 勝人</u>	(公社) 全国和牛登録協会 専務理事
<u>井上 慶一</u>	宮崎大学農学部畜産草地科学科 教授
<u>大山 憲二</u>	神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター 教授
<u>片平 梨絵</u>	トップフィールド・マーケティング(株) 代表取締役
<u>河村 正</u>	(独) 家畜改良センター鳥取牧場 場長
<u>児島 浩貴</u>	鹿児島県農政部畜産課 課長
<u>小林 淳二</u>	(公社) 日本食肉格付協会 専務理事
<u>佐藤 理香</u>	サトウ食品(株) 代表取締役社長
<u>鳥巢 ゆかり</u>	穴見畜産
<u>根岸 拓哉</u>	(有) ビクトリー 代表取締役
<u>廣岡 誠二</u>	全国農業協同組合連合会 畜産総合対策部 次長
<u>安森 隆則</u>	(一社) 家畜改良事業団 総務部長
<u>渡辺 亨</u>	(一社) 岩手県畜産協会 副会長理事

※敬称略、五十音順。

下線は畜産部会委員、青字は座長。

# (参考)家畜及び鶏の改良増殖目標畜種別研究会委員一覧

## ■ 豚

大槻 祐吾	JA全農ミートフーズ（株）取締役 畜産生産事業本部長
岡村 俊宏	（国研）農業・食品産業技術総合研究機構 食肉用家畜研究領域 食肉用家畜モデル化グループ 主任研究員
金子 智博	イトーヨーカドー 精肉部 マーチャンダイザー
木全 誠	（株）シムコ 技術部長
小林 博行	（公財）日本食肉流通センター 専務理事
佐々木 佳奈	日本ハム（株）食肉事業本部食肉マーケティング推進室 マネージャー
鈴木 香澄	岐阜県畜産研究所 養豚・養鶏研究部 主任研究員
田中 靖樹	（公社）日本食肉格付協会 総務部長
藤岡 康恵	（独）家畜改良センター 企画調整部 技術統括役
前田 佳良子	セブンフーズ（株）代表取締役社長
前田 恵助	和歌山県紀南家畜保健衛生所 次長
湯浅 伸子	（一社）日本養豚協会 事業部改良事業課 係長

## ■ 鶏

秋川 正	（株）秋川牧園 代表取締役社長
浅木 仁志	（一社）日本食鳥協会 専務理事
岩見 光高	（株）ニチレイフレッシュ調達生産本部 畜産戦略部1グループ 部長
大津 晴彦	（国研）農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門 食肉用家畜研究領域 食肉用家畜飼養技術グループ グループ長
小原 順司	JA全農たまご（株）常務取締役経営企画本部長
佐藤 真弓	生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 ビジョンフード推進部 農畜産課 課長
高松 信吾	（一社）日本養鶏協会 筆頭副会長
竹内 正博	（株）イシイ 代表取締役社長
丹菊 将貴	（独）家畜改良センター岡崎牧場 場長
徳留 英裕	みやざき地頭鶏事業協同組合 専務理事
西松 賢吾	（株）後藤孵卵場姫研究所 研究育種課長
畠中 五恵子	（有）畠中育雛場 代表取締役
宮川 博充	愛知県農業総合試験場畜産研究部 主任研究員

※敬称略、五十音順。

下線は畜産部会委員、青字は座長。

# (参考)家畜及び鶏の改良増殖目標畜種別研究会委員一覧

## ■馬

桑田 美智代	JA ひだか東 組合長
齊藤 哲	十勝農業協同組合連合会 畜産部長
佐々木 啓文	十勝馬事振興会 会長
南保 泰雄	国立大学法人 帯広畜産大学 グローバルアグロメディシン研究センター 教授
新津 良明	十勝馬事振興会 青年部会 副部長
廣岡 俊行	(独) 家畜改良センター十勝牧場 業務第二課 課長
布施 勝	(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会 事務局長
松田 芳和	日本中央競馬会 馬事部 部長
茂木 秀仁	(公財) ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル 理事
山元 護大	(公社) 日本馬事協会 専務理事
頼田 勝見	地方競馬全国協会 参与

## ■めん山羊

石田 直久	石田めん羊牧場 代表
小嶋 規純	(独) 家畜改良センター茨城牧場 長野支場支場長
河野 博英	日本緬羊研究会 会長
里井 真由美	フードジャーナリスト、 (一社) 日本飲食団体連合会 理事
林 義明	名城大学農学部附属農場 フィールド生産科学研究室 准教授
藤川 朗	(地独) 北海道立総合研究機構畜産試験場 畜産研究部中小家畜グループ 専門研究員
真喜志 修	沖縄県農林水産部畜産課 課長
森田 恵美	(独) 家畜改良センター十勝牧場 業務第二課 課長補佐
水谷 昌子	山羊のしっぽ農園 代表
八木 淳公	(公社) 畜産技術協会 事務局長

※敬称略、五十音順。

下線は畜産部会委員、青字は座長。